

遠
2378
25

山東京山作
鳥居清峯画
劇春大狂也
全

文化辛未新板 森屋治兵衛梓

大正

入重し一れとも
一金百取也
右に二のともをとり
紋一借用し趣美に也
兼此回を先打込
不仕ゆを二つを何何
ありとも由切りて
其節一をのびる
為後日仍も件
辰三月 在る
調ふる



金ひの娘お力
可翠
雪の夜
おき

大江山 松張のど 松張のど 松張のど 郎太 吞之瀧



詩
姫
佐木の
姫君



喜三郎
綱五郎
佐木
西目之助

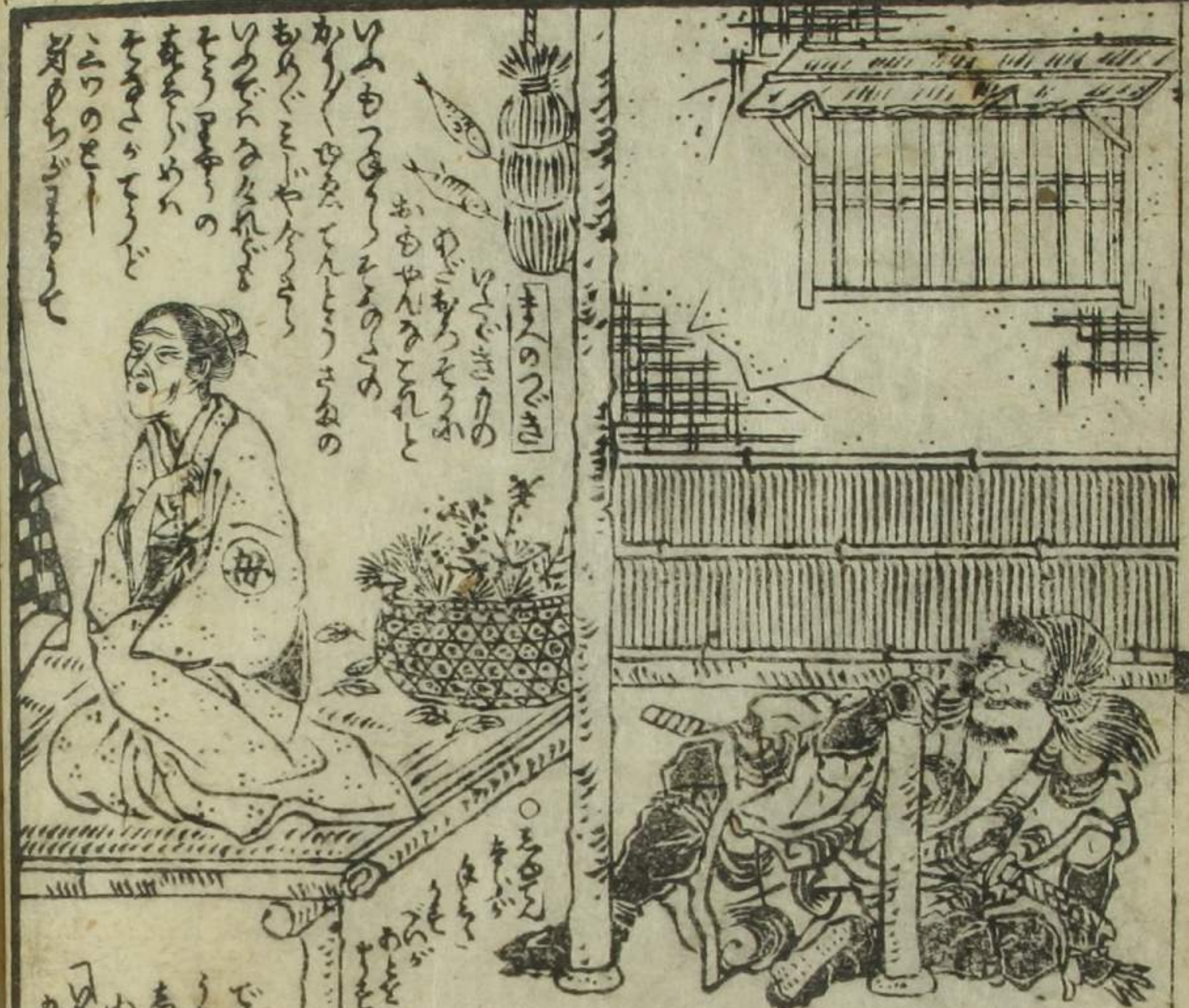


一これよりおれがさぐさのふぬのちのふぬの
 まアこちのふぬのちのふぬのちのふぬのちのふぬの
 一これよりおれがさぐさのふぬのちのふぬの
 まアこちのふぬのちのふぬのちのふぬのちのふぬの
 一これよりおれがさぐさのふぬのちのふぬの
 まアこちのふぬのちのふぬのちのふぬのちのふぬの

六
 母のふぬのちのふぬのちのふぬのちのふぬの

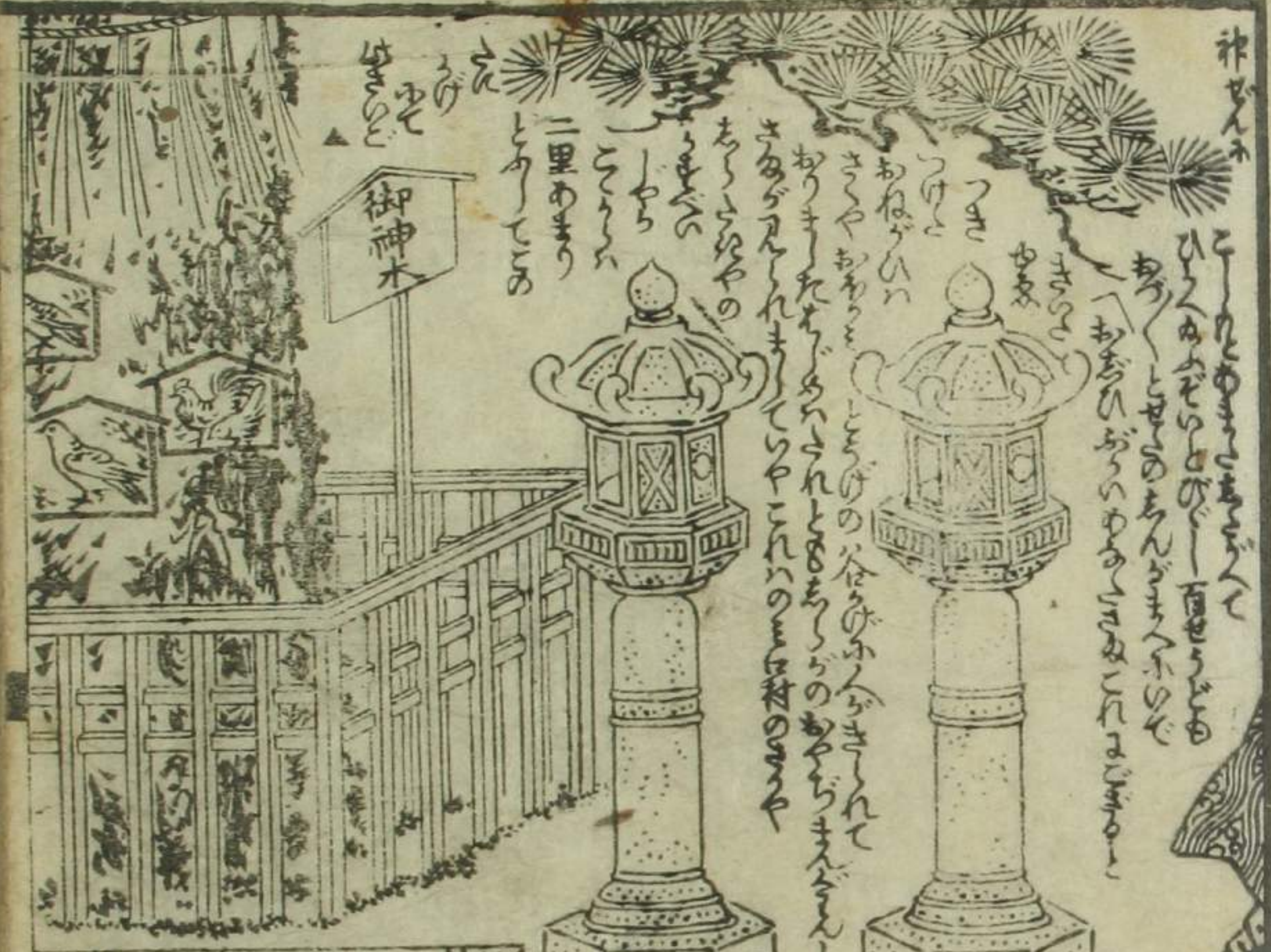


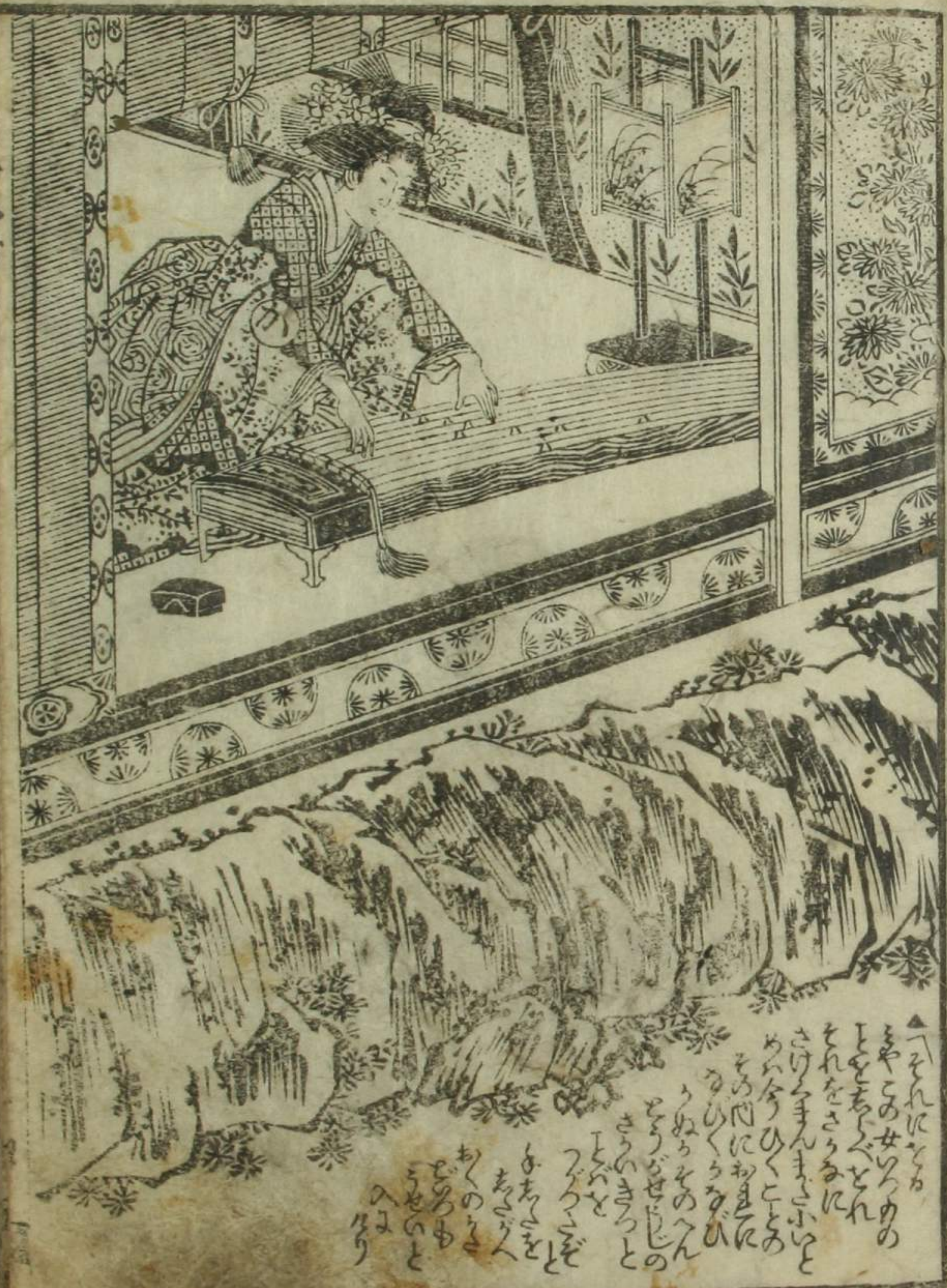
かねてけりしもの母と人
 けんぞいぬあがまするト
 さいのものをうひまわつてけりしもの
 ... (The rest of the text in this column is written vertically and is partially illegible due to fading and handwriting style.)



... (The text in this column is written vertically and is partially illegible due to fading and handwriting style.)

Vertical text in the right margin, possibly a page number or title, including the character '七' (7) at the bottom.





一それにてか
 る女の女のの
 正とあふとれ
 それをさうな
 さりて手んまこい
 めい今ひくこと
 その内におま
 るひくうなひ
 うぬうそのへん
 とうがせしん
 さうまきつと
 正と
 つんごと
 もあふと
 あふと
 あくのま
 ともあふ
 さいいと
 入
 けり



月とてなると又も
 かんぢの依りあつちのの
 そらうちせと上りのあひ
 とあどわけなまを
 むらつれあひのま
 大まあつち
 つまあつち
 せらかくのん
 あつちあつち
 あんぢあつち
 人れとと
 ちもと
 へん
 こへん
 こへん

わとにふいそ
ふたひとち
おーや
むねん
やあ



さしきあやの
こころをちてんたんとありあけいふど
さしきあやのこころをちてんたんとありあけいふど
さしきあやのこころをちてんたんとありあけいふど
さしきあやのこころをちてんたんとありあけいふど

さしきあやのこころをちてんたんとありあけいふど
さしきあやのこころをちてんたんとありあけいふど
さしきあやのこころをちてんたんとありあけいふど
さしきあやのこころをちてんたんとありあけいふど



あやのこころをちてんたんとありあけいふど
あやのこころをちてんたんとありあけいふど
あやのこころをちてんたんとありあけいふど

あやのこころをちてんたんとありあけいふど
あやのこころをちてんたんとありあけいふど
あやのこころをちてんたんとありあけいふど
あやのこころをちてんたんとありあけいふど



あやのこころをちてんたんとありあけいふど
あやのこころをちてんたんとありあけいふど
あやのこころをちてんたんとありあけいふど



月乃
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの

作者
月乃
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの

作者のく
月乃
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの

作者のく
月乃
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの

ちひさけのれいひとぬいり
 こまのまゝにうゝまを
 そはわりのわのむかひ
 梯のそをまをやく
 おつとりはら同乃助を
 ましむ花をうゝて
 ちをゆれは梯井乃つね
 とあひひ「いやまゝれい
 とまのまゝおゝまゝん女の
 うけをいゝちやうま
 けをあらそ
 りりり「まゝん
 ちひさけのれいひとぬいり
 こまのまゝにうゝまを
 そはわりのわのむかひ
 梯のそをまをやく
 おつとりはら同乃助を
 ましむ花をうゝて
 ちをゆれは梯井乃つね
 とあひひ「いやまゝれい
 とまのまゝおゝまゝん女の
 うけをいゝちやうま
 けをあらそ
 りりり「まゝん

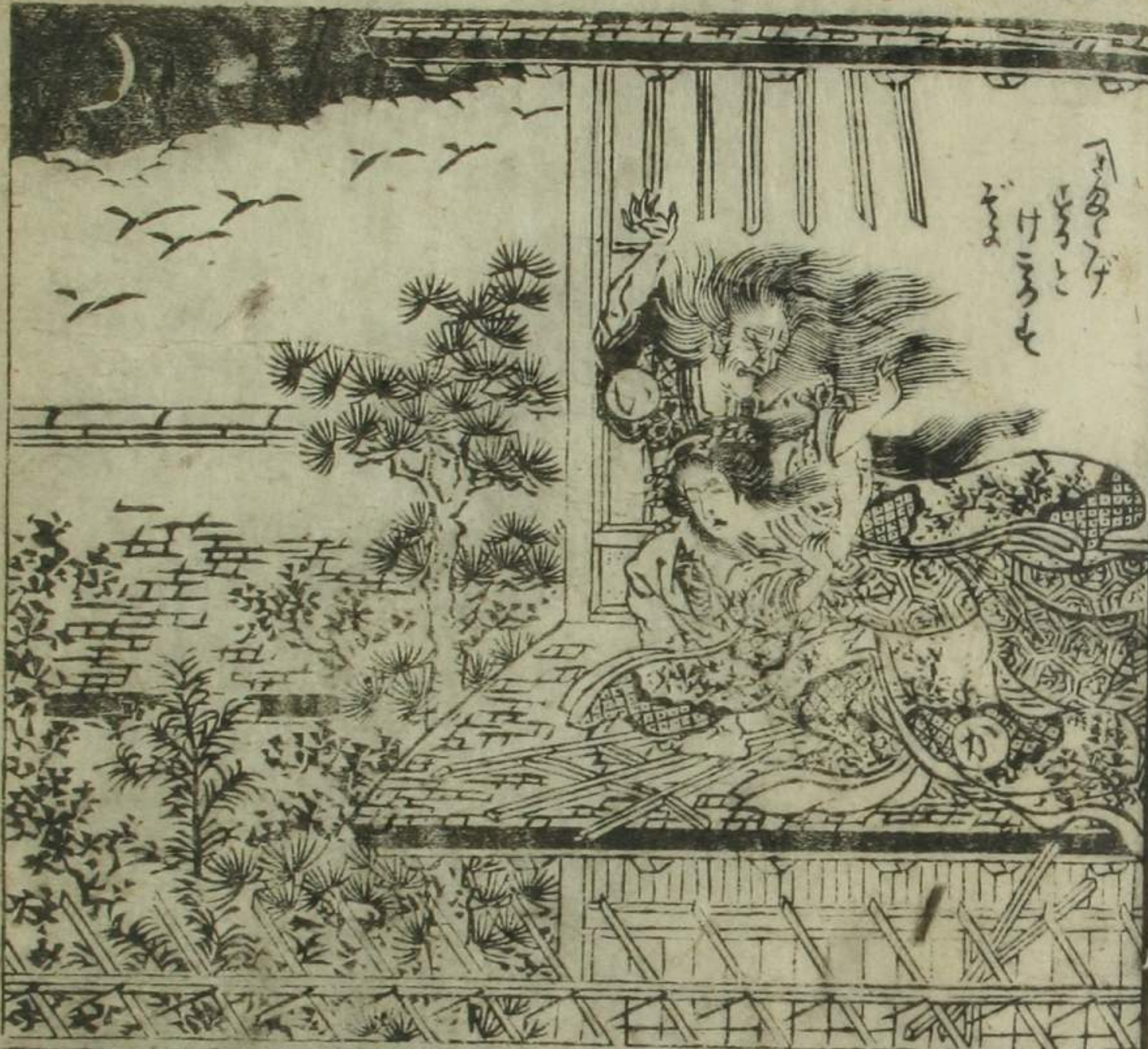


ちひさけ
 のれいひ
 とぬいり

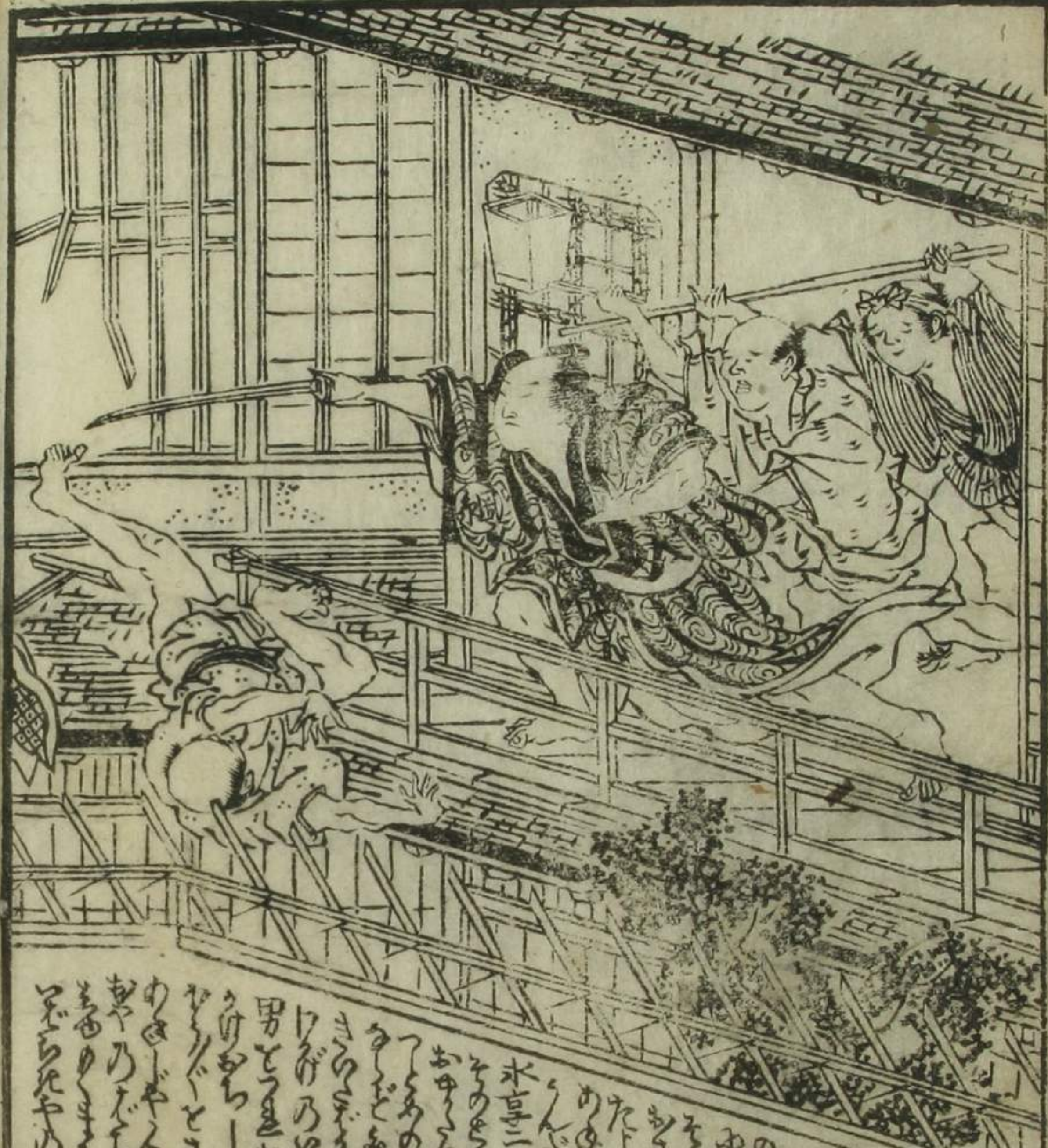


ちひさけのれいひとぬいり
 こまのまゝにうゝまを
 そはわりのわのむかひ
 梯のそをまをやく
 おつとりはら同乃助を
 ましむ花をうゝて
 ちをゆれは梯井乃つね
 とあひひ「いやまゝれい
 とまのまゝおゝまゝん女の
 うけをいゝちやうま
 けをあらそ
 りりり「まゝん

ちひさけのれいひとぬいり
 こまのまゝにうゝまを
 そはわりのわのむかひ
 梯のそをまをやく
 おつとりはら同乃助を
 ましむ花をうゝて
 ちをゆれは梯井乃つね
 とあひひ「いやまゝれい
 とまのまゝおゝまゝん女の
 うけをいゝちやうま
 けをあらそ
 りりり「まゝん



夜半... 月夜... 丁酉正月... 夜半... 月夜... 丁酉正月...
 ...



...



此の
町の
あな
たは



まじりくちりやうのあしねとか人もあつる男ども
せんきりなきおゆるりていんとゆふちひ乃
まわてにけいせいのふりかへんまゝのつるあふ
んくのたむけをてくひさしとゆてりまてん
こぢりてさるかのあはれをこれとあててえんま
あつるけいせいのふりかへんまゝのつるあふ
んくのたむけをてくひさしとゆてりまてん
こぢりてさるかのあはれをこれとあててえんま
あつるけいせいのふりかへんまゝのつるあふ
んくのたむけをてくひさしとゆてりまてん
こぢりてさるかのあはれをこれとあててえんま

△江戸
の助
小の
り
か
り
ま
り



作者曰
此は...
...

...



...

...

